

島根の庭園マップ(版)

庭園文化研究分科会 宇野 真一

1. 分科会活動の経緯

今年は県西部津和野で庭園7か所を視察した。当然「出雲流」ではない。分科会活動も4年目となるが、これまでの大きな流れを説明したい。

発足の契機 2009年

奥出雲視察の折りに「卜藏庭園」に立ち寄り、名園の荒廃と再整備までの経緯を知った。往時の姿を記録に留めていたのは重森三玲の図面と「出雲流庭園」という書籍だけである。「出雲流」という言葉は初見だったが一般的用語ではないようで実相が見えてこない。



卜藏庭園(2009)

まずは現状把握 2010年～2013年

庭園文化研究分科会を発足させる。まずは「出雲流」の現状把握を目的として「原鹿江角邸」など平田・斐川方面に足を運ぶ。翌年は松江・安来方面、翌々年は斐川の一般住宅なども視察し「出雲流」の拡がりを確認。



鱒淵寺本坊庭園(2010)

比較対象として“出雲流ではない”庭も視察し、4年間で30カ所以上を訪れたことになる。

接客空間として活かされている例もあるが、維持管理が行き届いていないと感じる庭も多い。

“「出雲流」とは何か？”から始まった分科会活動だが、“日本庭園の将来は？”と考えざるを得ない現状が目につく4年間でもあった。



本高見家庭園(2012)

日本庭園の荒廃は想像以上に進んでいる。

問題点を挙げてみると

「出雲流庭園」と呼べる作庭手法は確かに存在する。しかし認知度は低い。

地域文化としての庭園が意識されていない。(島根の庭園 足立美術館)

庭の印象を大きく左右する維持管理の密度が年々低下している。

個人はもとより寺社・公共施設でも維持管理コストが重荷になっている。

日本庭園そのものが特別な存在になり、次世代に継承される保証もない。

出雲流庭園という地域文化

特定富裕層から始まった文化が一般にも拡がり定着しているという意味で「出雲流庭園」と「茶文化」は似ている。多少の誇張があるが一般家庭で抹茶を嗜むように、一般住宅の庭が普通に「出雲流」であったりする。豪農屋敷や旧本陣にだけ名園として

残されているわけではないのだ。それを可能にした“美意識”と“ゆとり”、具体的造形を生み出した“環境”と“技術”があるからこそ「出雲流庭園」は地域（に根差した）文化といえる。

足立美術館の存在感

Web上の印象だが、由志園や堀庭園などに比べると足立美術館の庭園に関する情報量は圧倒的に多い。島根を訪れる人はNo.1の庭を見て満足であろうし、それ自体は決して悪いことではないのだが、“　　の庭が素晴らしかった”で終わるのではなく、“次に来たときは　　の庭も見たい”と感じてもらえることも必要である。

実際に足を運んでもらうことは簡単ではないが、島根の庭園　足立美術館だけという公式は崩していきたい。

庭は維持したいけど

“気配り”と“センス”が感じられない庭は退屈で荒廃した印象を持たれる。維持管理コストが重荷になっていることも事実だが、庭を維持するモチベーションが保ちにくくなっているようにも見受けられる。

庭は接客空間の一部なので美しく保つためには他人の目を意識するという緊張感が欠かせない。オーナーが自分達の庭の価値を実感できる機会がもっと必要である。

まずは存在アピールから

より多くの人々が庭園を訪れてほしい。できれば維持管理コストの一部を負担してもらえる仕組みができればなお良い。それが実現できれば問題はないが、まずは島根の庭園についてよく知ってもらいたい。特に強調したいのは“総体として質が高いこと”、“多彩かつ広範囲に存在すること”、“独特の作庭手法もあること”などである。

そこで“島根の庭園マップ”を作成しWeb公開を目指すことにした。

2. まずは庭園リストをつくる

ひとまず県内90カ所をピックアップした。エリア別では県東部66カ所、県中部5カ所、県西部19カ所となっている。

分科会ではこのうち31カ所を視察しているが、荒廃した庭や個人宅（原則非公開）を除く20カ所程度のマップ化を行う。最終目標は県内50～60カ所である。

リストに挙げた庭は、以下の情報に基づいている。

名勝・登録文化財など（庭園または露地が指定されているもの）

国指定（名勝-1カ所、史跡および名勝-2カ所、登録文化財-5カ所）

島根県指定（建造物・附露地-1カ所、名勝-1カ所）

市町村指定（建造物・附露地-1カ所、名勝-4カ所）

書籍・ネット情報・口コミなど

- 島根の名園（53カ所）、推奨日本の名園～京都・中国編（5カ所）
- 出雲流庭園（33カ所）、The Journal of Japanese Gardening（7カ所）
- その他、観光協会や各施設のHP、ブログ記事、個人紹介など

表 2-1 リスト化した庭園数

エリア	庭園数	建物区分											視察状況									
		寺社	公共施設		商業施設		旧家		個人宅		茶庭		視察	容易	未詳	困難・不可						
県東部	安来市	8	5	1	1			1		1			4	2	2							
	東出雲	4	2					1		1			1		1		2					
	奥出雲町	4						3		1				3			1					
	雲南市	2				1		1							1		1					
	小々計	18	7	39%	1	6%	2	11%	5	28%	3	17%	0	0%	5	28%	5	28%	4	22%	4	22%
	旧松江市	14	3		1		2		1		4		3		5		5		2		2	
	八束	1					1									1						
	玉湯	3					3											3				
	宍道	2							2						1						1	
	小々計	20	3	15%	1	5%	6	30%	3	15%	4	20%	3	15%	6	30%	6	30%	5	25%	3	15%
	斐川	6							2		4				5						1	
	平田	9	5						3		1				6		1				2	
	大社	4							1		3					2		1			1	
	出雲	9	2						1		4		2		2		3		1		3	
小々計	28	7	25%	0	0%	0	0%	7	25%	12	43%	2	7%	13	46%	6	21%	2	7%	7	25%	
小計	66	17	26%	2	3%	8	12%	15	23%	19	29%	5	8%	24	36%	17	26%	11	17%	14	21%	
県央	大田市	5	3							2					1		3			1		
	小計	5	3	60%	0	0%	0	0%	0	0%	2	40%	0	0%	1	20%	3	60%	1	20%		
県西部	浜田市	6	6											2		4						
	江津市	2		1				1						2								
	益田市	3	2		1									3								
	津和野町	8	1					4		3				7				1				
	小計	19	9	47%	2	11%	0	0%	5	26%	3	16%	0	0%	7	37%	7	37%	5	26%	0	0%
島根県	合計	90	29	32%	4	4%	8	9%	20	22%	24	27%	5	6%	31	34%	25	28%	19	21%	15	17%

表 2-2 島根の庭園リスト

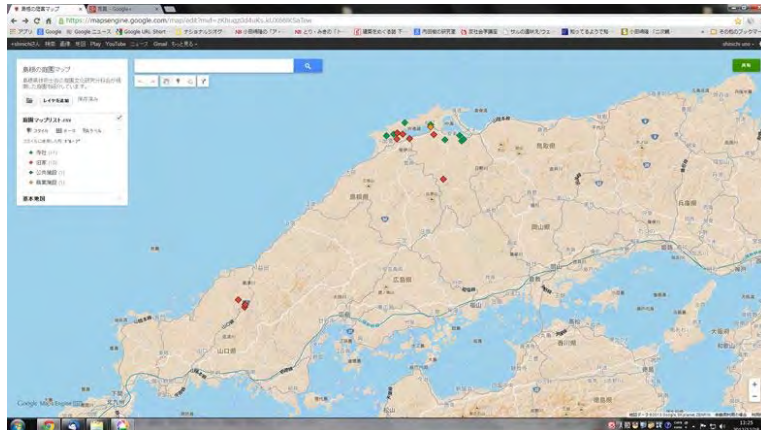
エリア	庭園名	種別	所在地	面積	築年	所有者	公開状況	安来・東出雲・奥出雲エリア																
								公開	非公開	未詳	困難	不可	その他	備考	備考	備考	備考	備考	備考					
安来市	龍泉寺庭園	寺社	安来市龍泉寺	約1000㎡	1900年	龍泉寺	公開	公開																
	松雲亭	茶庭	安来市松雲亭	約1000㎡	1900年	松雲亭	公開	公開																
	松雲亭	茶庭	安来市松雲亭	約1000㎡	1900年	松雲亭	公開	公開																
	龍泉寺	寺社	安来市龍泉寺	約1000㎡	1900年	龍泉寺	公開	公開																
	龍泉寺	寺社	安来市龍泉寺	約1000㎡	1900年	龍泉寺	公開	公開																
	龍泉寺	寺社	安来市龍泉寺	約1000㎡	1900年	龍泉寺	公開	公開																
	龍泉寺	寺社	安来市龍泉寺	約1000㎡	1900年	龍泉寺	公開	公開																
	龍泉寺	寺社	安来市龍泉寺	約1000㎡	1900年	龍泉寺	公開	公開																
	龍泉寺	寺社	安来市龍泉寺	約1000㎡	1900年	龍泉寺	公開	公開																
	龍泉寺	寺社	安来市龍泉寺	約1000㎡	1900年	龍泉寺	公開	公開																

3.“島根の庭園マップ”完成イメージ

作業性や携帯アプリとの連動性も考慮し GoogleMaps を利用することにした。
イメージ共有のために作成した 版で概要を説明する。

<https://goo.gl/hZjVsi>

図 3-1 リンクから開く最初の画面 (GoogleMaps)

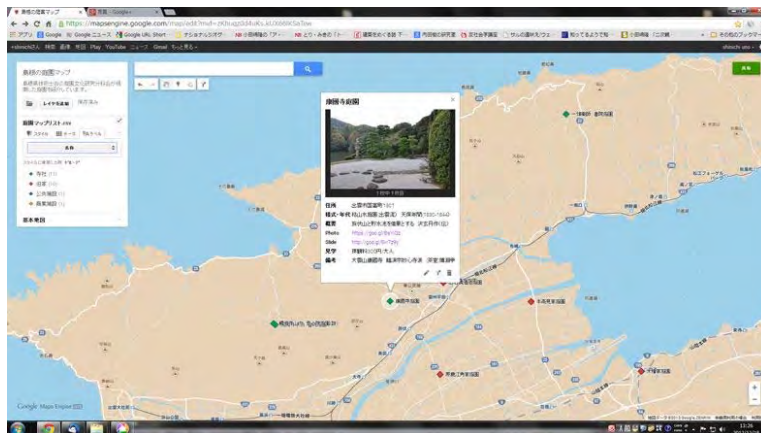


最初の画面

マップ上に庭園位置を示すマーカーと庭園名称が現れる。拡大縮小は GoogleMaps と同じ。

寺社や旧家などの建物区分でマーカーを色分け。

図 3-2 マーカークリックで情報ウインドを表示



庭園情報ウインド

マップ上の[マーカー]クリックで情報ウインドが表示される。

ウインド内の写真は増やすことも可能。

図 3-3 情報ウインド (拡大)

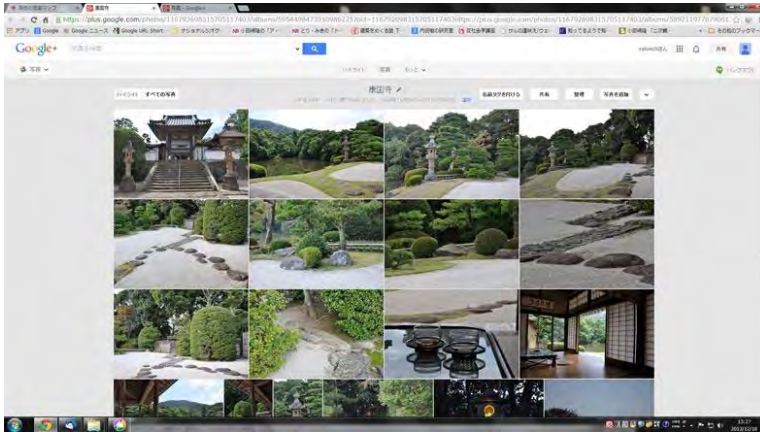


情報ウインド

庭園名称、代表的写真、住所、様式、特徴、年代、見学の可否や拝観料など。

ウェブアルバム、観光 HP、Wiki などのリンクを貼ることも可能。

図 3-4 情報ウインドからウェブアルバムへ

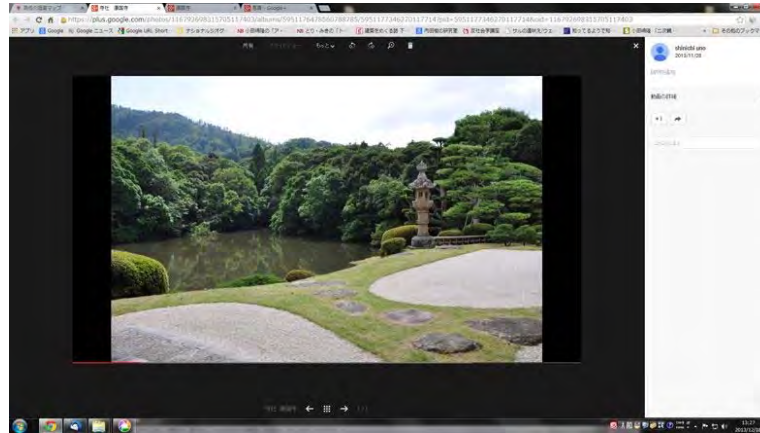


ウェブアルバム

情報ウインド内のリンクからウェブアルバムに移動できる。

選択した写真の拡大表示やコメントを見ることができる。

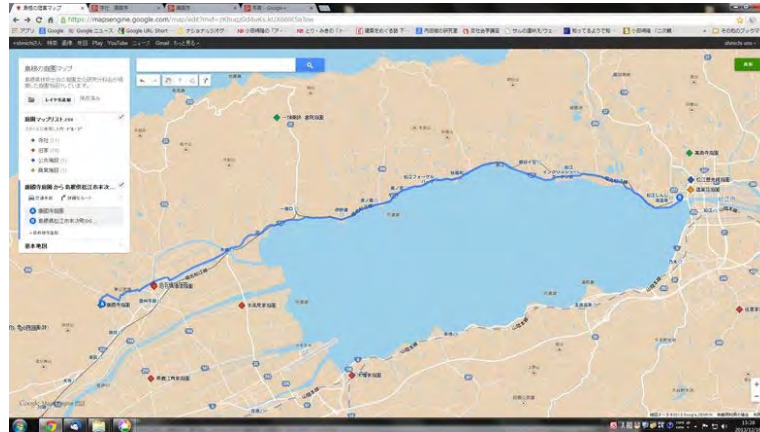
図 3-5 スライドショーへのリンクも可能



スライドショー

スライドショー（動画）に直接リンクさせることも可能。

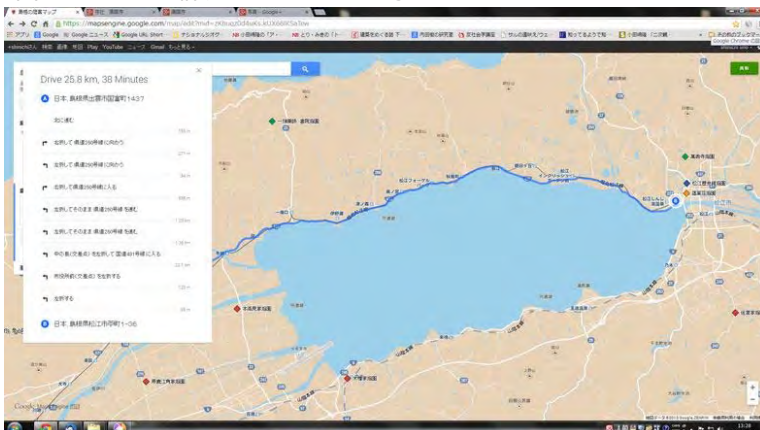
図 3-6 ルート検索機能をつかう



ルート検索

庭園を選択してルート検索機能を使えば、スタート地点と庭園を結ぶ移動ルートを表示できる。
[地図上の青線]

図 3-7 さらに詳細なデータを表示させる



詳細ルート

[詳細なルート]を表示させれば、方角、距離、道路名、右左折などの情報が表示される。

4.“島根の庭園マップ”一般公開に向けて

版を用いてデータの公開範囲やリンクを検証しているが、アルバム作成は2か所だけに留まり写真にコメントも添えていない。庭園マップの充実化と一般公開に向けて協力をお願いしたい。

情報提供のお願い

文化的価値が高い庭や単独で観光資源になり得るような庭だけが分科会の対象ではない。それなりに質の高い庭は、寺社や個人宅をはじめ数多く存在していると思う。

特に非公開の庭を視察させていただくためにはオーナーとの個人的つながりも必要であり、アンテナに引っ掛りにくい庭の情報提供をお願いしたい。

写真提供のお願い

庭園ごとに10~20枚の写真でウェブアルバムを作成する。そのため実際に使う数の2~3倍、一庭園40~50枚の写真が必要となる。撮影枚数は個人によってバラツキもあるため、これまで庭園視察に参加した方々には写真データの提供をお願いしたい。

アルバム作成

20数か所におよぶウェブアルバムの作成は複数人で分担し、各写真には説明コメントを加えたいと考えている。アルバムは各自がそれぞれのPCで作成してオンライン上で共有する形をとりたい。膨大なデータをアップするオンラインストレージはGoogleが1GBまで無料で提供しているサービスを利用する。このストレージでは長辺2,048ピクセル以下の写真と15分以内の動画を保存容量としてカウントしないため、その範囲内のデータであれば実質無制限にアップできる。

具体にはGoogleアカウントを取得してPicasaをインストール、Picasaウェブアルバムを利用したい。Google+からアップすれば自動的にPicasaウェブアルバムに登録される。グループ共有の形で途中作業を行い最終的には一般公開する。

マップ作成

庭園マップの作成にはGoogle Maps Engine(Lite版)を利用している。

メリットは、エクセルデータ(住所)をCSVファイルに変換すれば一括してマッピングできること、プラットフォーム機能を利用して作成・共有が容易なこと、レイヤを重ねることで様々な地図を作成できること、将来的にはマイマップを統合しそうなことである。

マップ作成よりもアルバム作成が何倍も大変。“この庭は自分が担当したい”という方大歓迎です。

5.“島根の庭園マップ” スピンオフ企画

“島根の庭園マップ”はそれぞれの庭の紹介だが、特定テーマに沿ってグルーピングした形での庭園紹介も考えたい。以下は現段階での思いつき企画。

「出雲流庭園」

旧松江藩内だけに見られる作庭手法として「出雲流庭園」を積極的に紹介したい。「出雲流」度を示したマップを作成して、作庭手法の具体例を提示。特徴、見所などを解説する。

巨大短冊石ランキングなど「出雲流庭園」をつなぐ情報も提供したい。



原鹿豪農屋敷（2010）

「禅宗の庭」

禅宗の寺(特に臨済宗)には名園が多い。一般に禅の庭 = 枯山水というイメージがあるが、島根県の庭は出雲流 = 枯山水、禅寺 枯山水となる。

禅寺は曹洞宗・臨済宗ともに県東部に集中しているが、これは出雲流 = 枯山水に影響しているのだろうか。



一畑薬師書院庭園（2010）

「茶室」と「露地」

島根県には国の重要文化財「管田庵(閉鎖中)」をはじめ、茶の世界では有名な茶室がいくつも存在する。

個々の抹茶サービスも悪くはないが、まとまった紹介をすることで、文化的な厚みがより伝わるのではないか。



清水寺山内 蓮乗院庭園（2011）



蓮乗院古門堂 露地（2011）

「町屋の庭」

町屋では丁寧に維持された庭が生活を豊かにすることを実感できる。

津和野で2月に開かれる“「町屋の中庭」観賞の仕方”ワークショップに庭園分科会も参加予定である。住みながらの庭園公開に関するヒントを探りたい。

「灯籠・飛石・蹲・・・etc」

県内の庭園数十か所の写真数百枚が集まったら、特定のパーツを集めて総覧化してみたい。つまり「島根の灯籠」「島根の飛石」「島根の蹲」・・・etcである。

その結果から見えてくるものがありそうな気がしている。



椿氏庭園（2013）



松江歴史館（2012）



斐川個人宅（2012）

6．最後に

マップ作成の前段階としてリスト化を行った。作業の多くはWeb上のデータ検索から始まっているのだが、特定テーマに沿って情報収集しようとしても網羅的・施設横断的データがほとんど見つからない。

自治体や観光協会のHPに載せられている庭園も少なくはないのだが、単独で客が呼べる庭はあまりない。“庭園の層の厚さ”を地域文化としてアピールする試みとしてスピンオフ企画と称して並べてみた。実はこちらが本命と考えている。